

在宅医療・介護連携に関する相談支援について

1 相談実績（令和8年4月～7月）

(1) 在宅医療・介護連携に関する相談窓口 6件

ア 相談内容

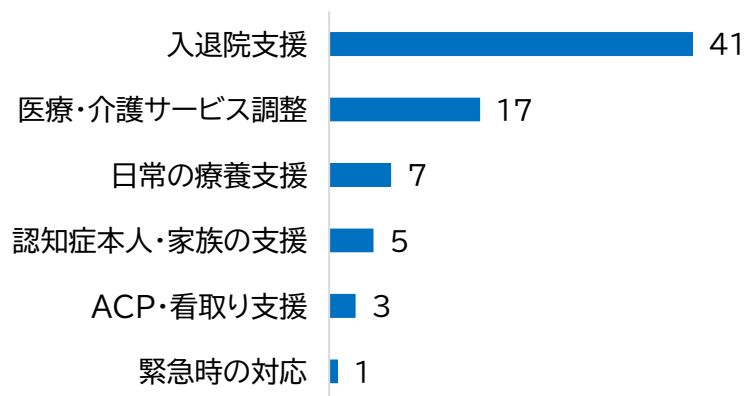
- ・入所施設についての情報提供
- ・訪問診療・往診に関すること
- ・医療相談窓口についての情報提供
- ・研修会等の企画運営に関すること
- ・入院中のケアに対する不安・不満に関すること
- ・在宅医療・介護連携に関する相談窓口の役割について

イ 相談者

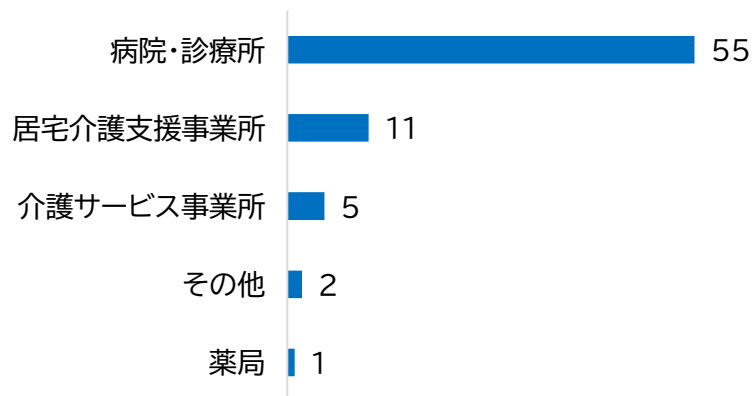
- ・ソーシャルワーカー 3件
- ・地域包括支援センター（高齢者相談室） 2件
- ・市民 1件

(2) 地域包括支援センター（高齢者相談室） 74件

ア 相談内容



イ 相談者



ウ 主な相談事例

カテゴリー	具体的内容
入退院支援	・レスパイト入院の調整に関する事 ・独居で身寄りのない方の退院調整に関する事 ・在宅移行が難しい状況下での退院調整に関する事 ・切れ目のない在宅移行における情報共有について
医療・介護 サービス調整	・ターミナル期の方のサービス調整に関する事 ・本人・家族の理解や同意が得られないまま、医療者主導のサービス調整が進み、本人・家族が困った事案について
日常の療養支援	・通院が難しい方や独居で認知症の方の服薬管理に関する調整
認知症本人 家族の支援	・認知症や認知機能低下により受診拒否がある方への、受診のつなぎ方や生活支援に関する事
ACP・看取りの支援	・関係者間の看取りや療養場所に関する認識や、医療者と本人・家族の意向に相違があり、調整が難しかった事案について
緊急時の対応	・身寄りのない方の緊急連絡先について

2 相談支援から見える現状・課題

(1) 退院支援・在宅移行支援時の情報共有や連携について

- ・病院でサービス調整が進められた後に包括へ連絡があり、サービスありきの相談や調整になっている。
- ・在宅生活が難しい状況でも退院調整を相談されるケースがある。あるいは、退院した後に連絡があり調整が難しい。
- ・書面上の情報共有で終わってしまい、退院後のリハビリの流れが切れてしまう。

(2) 医療・介護関係者の相互理解について

- ・病院・地域包括支援センター・ケアマネジャーの役割の理解が十分でない。
- ・身寄りのない方への対応は包括対応のみと思われるケースが多い。
- ・「いつ、誰に、何を、どこまで相談すればよいか」不明な点があり、相談のタイミングが遅れたり、調整が重複している。

(3) 本人・家族を中心とした意思決定支援（ACP）、意向に沿った支援について

- ・関係者間で看取りや療養場所に対する認識や意向が異なり、調整が難しかった。
- ・医療者主導でサービス調整が進められ、本人・家族が困っている。

3 課題を踏まえた取組の方向性

地域包括支援センターに寄せられた相談事例からは、退院支援や在宅療養への移行における調整、医療・介護関係者の相互理解、本人・家族の意向を踏まえた支援など、医療と介護の連携に関する課題が共通して見られた。

今後も、相談内容を継続的に把握・分析し、地域課題を明らかにするとともに、課題を多職種連携研修や情報共有の仕組みづくりなどの在宅医療・介護連携推進事業へ反映し、地域における切れ目のない支援体制の充実を図る。